

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月4日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

※事業所記入

事業所番号	3870103037
事業所名	グループホーム愛松園
(ユニット名)	ひまわり
記入者(管理者)	
氏 名	増野 京介
自己評価作成日	平成29 年 8 月 31 日

【事業所理念】 1、ゆっくり、一緒に、楽しく、家庭的で温かな雰囲気で過ごして頂きます 2、自立し生きがいを持った生活を支援します 3、愛され、尊厳され、認められ、人間としての尊厳を大切にします 4、安心・安全な生活の提供に努めます	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 皆さんとの触れ合う機会を増やす。「内容」・地域行事への積極的な・ホーム行事への地域の方への声かけ・新たなイベントの考察、実施 「結果」・地域行事への参加はおおむね出来ている・ホームでの行事(夏祭りなど)の参加の声かけは行っているが、地域の方の参加はない・新たなイベントの考察、実施は出来ていない 「目標」家族の運営推進会議への参加「内容」・日頃から参加の声かけを行う・ホーム行事時に会議を開催する・運営推進会議の理解をしてもらうよう説明等を行い参加を促す「結果」・参加の声かけは行っているが、一家族のみの参加が多い・ホーム行事時に開催できていない・説明を行い参加を促しているが、ご家族の都合が合わない	「目標」地域の 【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 新たな管理体制となって3年目を迎え、当初目指した風通しのよい職場環境の中で職員が同じ思いを持ち、利用者が持っている力を活かしながら家庭的な雰囲気の中で暮らしていけるよう支援している。家族と共に支える関係を重視し、様々な機会を作って意思疎通を図りながら信頼関係を構築している。行事と同日に開催する家族会や、年1回行う日帰り旅行は利用者と家族の絆を深めている。職員は利用者と同じ目線で、利用者の笑顔や感謝の言葉をやり甲斐に感じ、サービスの向上に取り組んでいる事業所である。
---	--	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所前の面談で思いや希望などを把握し、日々の生活の中でもコミュニケーションをとり、思いなどを把握するよう努めている	○		○	入居時に利用者一人ひとりの思いや暮らしの希望を聞き取るほか、入居後は日頃の会話の中から把握するよう努めている。意向などを表現しにくい利用者は行動やしぐさから推察するなど、利用者の視点に立った支援に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	これまでの生活を確認し、本人様の事を考えながらカンファレンスで検討している				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会が多い方とはコミュニケーションはとれているが、面会が少ない方とは、話し合う機会は少ない				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	毎月のカンファレンスで話し合っているが、介護記録などに思いや訴えなどを整理できていない時がある				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人様の立場になって考えるよう留意している				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前での面談や入所後には、関係者とコミュニケーションをとり、把握するよう努めている			○	入居時に利用者や家族から情報を収集するほか、病院や利用していた介護事業所から情報を得て、所定の記録用紙に記載している。利用者の生活歴や人間関係について聞き取ると共に、入居後の暮らしの様子は、申し送りや毎月開催されるカンファレンスで職員が話し合い、共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日々の生活の中で出来る事はして頂くようにし、不必要な介助は行っていない				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の記録やカンファレンスで話し合い、いつ・どういう時にというのは把握するよう努めている				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	毎月のカンファレンスで話し合い、要因が何か話し合い、改善できるように支援している				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	日々の介護記録の中で、パターンやリズムを把握できている				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	毎月話し合う機会を持ち、必要であれば家族様とも話す機会を持っている			◎	把握した情報は包括的自立支援プログラムを活用し、課題整理総括表に記載している。職員は利用者がこれまでの生活を継続し、その人らしく暮らせるよう考え検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	カンファレンスで本人様にとって必要な支援について話し検討している				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	話し合い課題も明らかにし、その課題に対しても話し合っている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人様の思いや意向にそった計画を作っている				生活課題は整理し、3項目程度にまとめ優先順位をつけている。利用者が持っている能力を活かせるよう実現可能な目標を設定し、活動的な暮らしありきで、支援する内容が盛り込まれている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	カンファレンスをしたり、家族様にも意見を聞いたり、みんなで話し合っている	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	努力しているが、同じ計画になってしまっている所がある				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	家族様や地域の人たちの内容は盛り込まれていない事が多い				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	職員間で共有しているが、全員が理解できていない			○	介護計画の内容を常に意識しながらケアに努めている。実施状況等については漏れのないよう記入されており、職員全員で共有し利用者の意向に沿った支援につなげている。調理の手伝いやお茶を入れてくれるなど、利用者の暮らしの様子や言葉が記録されている。利用者一人ひとりに対する職員の気づき等の記入が不十分なので、利用者本位のケアにつながるような職員の工夫等の記入が望まれる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	カンファレンスで話し合いモニタリングをし、日々の支援につなげている			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	こまかい様子や具体的内容を記入できていない時がある			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	気づきやアイデアを記入できていない時もあるが、話す機会はや作れている			△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じて見直しは出来ている			◎	毎月実施状況を記録に残し、それを基に計画作成担当者が中心となり職員全員で話し合っている。利用者の状態に変化があった場合は、その都度見直し、変化のない場合は6か月に1回見直している。特に状態に変化がみられない時でも、月1回はカンファレンスで話し合っている。評価表は効果が認められたもの、または見直しを要するものについて検討されており、5段階で評価されている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月のカンファレンスで、本人様の状態について話しあっている			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院し機能が低下した時には、見直しを行うようにし、状態にあった計画になるよう努めている			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的の会議は行っているが、緊急案件の時には、その都度の会議は中々行えていない			○	毎月、全職員が参加しカンファレンスを開催し、介護計画の検討がされている。職員は意見の提案や気づきを出し合い、介護計画が現状に即した内容になっているか話し合っている。勤務の都合で不参加の職員にも、議事録の閲覧などで共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	全員の意見が聞けるような雰囲気の中で行えている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	多くの職員が参加しており、翌月の予定も決めている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	記録の閲覧や口頭で伝えるようにしている			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	共有できるよう申し送りノートに記入し、共有するようにしている			◎	利用者の状態の変化や治療内容の変更等は、日々申し送りノートに記載して出勤時に内容を確認してサインすることで、確実な伝達ができるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	日々の申し送りをを行い、情報が伝わるようにしている	○			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	「外に行きたい」など可能な事であれば、叶うよう努めている				「散歩に行きたい」「コンビニに買い物に行きたい」等の利用者の希望に沿えるよう、支援に努めている。週1回の自由食の日の献立は、利用者のリクエストに応じて特別メニューになったり、飲み物は複数用意してその中から選んでもらったりしている。職員は常に利用者のことを考えており、場を盛り上げ利用者にも積極的に話してもらえるよう利用者に元気よく話しかけるなど、雰囲気づくりにも励んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択が出来る場面では選んで頂けるようにしている			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	職員で判断せず、本人様に決めて頂くように努めている				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人様のペースに合わせ、急がせずにゆっくりとしたペースで支援を行っている				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員が元気よく話しかけたりするなど、明るい雰囲気を作るようにしている			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	声かけを行い表情の変化が見られるように、常に話しかけるようにしている				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	声かけや態度は意識し出来ていない時には、職員間で注意をしている	○		○	職員は、利用者の尊厳やプライバシー保護について内部研修で学ぶ機会があり、利用者は目上の人であることを認識し、尊敬の念を持って接するよう心がけている。排泄介助時は居室扉を必ず閉めることや、入浴時希望する利用者には同性介助を行う等配慮している。また、不適切な言葉遣いに気づいた時は、その都度注意喚起しており、居室に入る際は必ずノックをするなどの配慮をしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	大声で声かけしないようし、周りに配慮するように努めている			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	周りに見えないようにプライバシーは配慮出来ている				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	ノックをして入ったり、許可をもらって訪室するなどの配慮は出来ている			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	全員理解できており守っている				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	料理や日常生活の中で分からない事があれば教えて頂いたりし関係性を築いている				ユニット間の仕切り扉は常に開放されており、利用者は相互に行き来して交流しており、日常の生活の中で、「危ないから座るとき。」等、利用者同士が思いやる場面がある。食卓の席配置などにも配慮し、利用者同士が何らかの形でかかわりあい、いい関係が築けるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	みんなで助け合いながら過ごして頂けるように努めており、職員も理解出来ている				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	テーブルの配置や日々の生活の中でみんなと関わりあえるような支援を行っている			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	原因を考え解消するように話し合いを行っている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人様や家族様、面会に来られた友人の方と話をし把握するよう努めている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人様や家族様、面会に来られた友人の方と話をし把握するよう努めている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	面会に友人など来られる時はあるが、出かける支援は出来ていない				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	いつでも来て頂いても大丈夫なので、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮している				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	○	散歩や買い物など外に出る時間を作るよう努めている	×		○	隣接する病院の池に鯉の餌やりに行ったり、近くのコンビニへ買い物に行くことがある。また、季節毎に、花見やいちご狩り、ぶどう狩り、紅葉狩り等、福祉車輛を使って遠出を楽しんでいる。年1回日帰り旅行を企画し、多くの家族の参加を得ることができている。重度の利用者の外出支援が短時間に止まっているので、機会をみて少しでも長い時間の外出につながるよう努めて欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	協力を得ながらの外出は出来ていない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	長時間は難しいので短い時間、外の空気を感じて頂けるように努めている			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族様の協力はあるが、地域の方の協力は出来ていない				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	原因を考えみんなで統一したケアが出来るようにしている				話し合いを通して統一したケアができるよう意思統一を図り、利用者のできることを大切にしたケアを実施している。利用者には、できることは自分のペースで行ってもらうようにしており、職員は必ず寄り添い見守っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	全て介助するのではなく必要に応じて介助し、機能が低下しないようにしている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	◎	ご自身のペースでして頂くようにし、見守りを行い出来る事はして頂いている	△		◎	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	日々の生活の中でその方の役割などを作るようにし把握できている				利用者のできることに着目して、暮らしの中で役割を持って暮らせるようにしている。洗濯物を畳んだり、調理では食材を切ったり米を研ぐなど、利用者それぞれが能力を発揮できるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	レベルが進んでもその中で何が出来るのか考え支援を行っている	○		○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中での役割は持てていない				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	一人ひとり違った服などを持っているので、本人様の好きな身だしなみは把握できている				職員は利用者がどのような状態であろうと常に清潔で、きちんとした身だしなみができるよう支援している。整容の乱れや汚れた衣類を着用している時は、それとなく声をかけて着替えてもらっている。家族から、「いつも同じ服を着ている。」という意見を受け、定期的にタンスを整理し、同じ服が上にならないよう工夫して収納するなど配慮している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	定期的に散髪し、本人様の馴染みの物を持ち生活できている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	一緒に考え本人様の気持ちを理解し、支援を行っている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	その季節にあった服が着れるよう支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	プライドや自尊心を傷つけないように声かけなどに配慮している	○		◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	訪問美容が多くなっている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	好きだった服が着れるよう身だしなみに気をつけている			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	全員が食事の大切さを理解している				朝食は職員が献立を考えて調理し、昼・夕食は食材宅配業者の献立に合わせて各ユニットで調理している。週1回は自由食の日としており、季節感のある旬の食材や昔なつかしいメニューを取り入れ食材の買出しや調理を行うなど、普段とは違う料理を楽しんでいる。誕生会では誕生日ケーキを注文して皆で祝っている。利用者は専用の茶碗とコップを使って食事をし、嚥下状態にあわせて食事形態を変える等配慮をしている。嚥下が困難な利用者に対し、職員がゆったりと優しく声をかけながら食事介助をしている。職員は調理の時に、食事が楽しくなるよう利用者にメニューの話をしたり、利用者と同一テーブルを囲み和やかな雰囲気ですべてを一緒にするなど配慮している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	出来る事は利用者様とやっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	出来る事をしてもらう事で喜びにもつながっている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	日々の生活の時にコミュニケーションをとり、好き嫌いを把握するよう努めている				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	献立は決まっているが週一回の自由食で献立を工夫している			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いづれどりの器の工夫等)	◎	いづれどりに気をつけ簡単にミキサーやキザミにしないようにしている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	その方に合った物を使っている			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなく行っている。	◎	毎食一緒に食事をし、その方の状態を把握するよう努めている			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	声かけを行いながら食事介助を行っている	○		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	業者からの発注なので、カロリーや栄養バランスは確保できている				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事・水分量をチェックしこまめに水分補給するなどしている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	週一回の自由食で同じメニューにならないように気をつけている			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	消毒など衛生管理に気をつけ勉強会も行っている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの大切さを全員が理解できている				毎食後、利用者の能力に応じた口腔ケアを行っている。口腔内に異常を見つけた場合は、訪問による歯科診療を受けることができる。職員は利用者の口腔内の状態を清潔に保つため、歯科衛生士の協力等を得て口腔内チェックを行うようにしており、予防的な対応等さらなる取組みに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	◎	毎日の口腔ケアで確認を行っている			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	学ぶ機会はありませんが、丁寧に口腔ケアを行っている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯洗浄剤を使用したり、義歯が汚れないように支援している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	◎	食後の口腔ケアは行っており、その都度確認を行うようにしている			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	異変があれば連絡し歯科医に見て頂いている				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	理解できおり簡単におむつの使用をしないように努めている				排泄チェック表に記録して一人ひとりの排泄パターンを把握している。夜間のみ、おむつやポータブルトイレを使用している利用者もいるが、昼夜ともなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。排泄状態に合わせて適切な排泄用品を選択できるよう職員で話し合い、家族の了承を得て、利用者個々の状態に合った支援に取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	原因や影響を全員が理解できていない				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	排泄チェック表を確認しながら、パターンを把握できるように努めている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	現在の状態にあった支援が出来るように考え、見直す機会を作るようにしている	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄パターンを確認したり現在の状態を考えながら、改善できるようにしている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	失敗しないよう早めに声かけを行うようにしている				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	おむつのみを使うのではなく、その人にあった物を使用するようにしている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	◎	室内は下着、外出時は紙パンツを使用するなど、その場面に応じて使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	◎	水分補給やラジオ体操を行うようにし便秘予防に努めている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	○	時間帯や長さは本人様の希望にそうように支援を行っている	◎		○	一般家庭浴槽に週2回入浴することを基本に介助しており、湯の温度や入浴時間、個人用シャンプーの使用等利用者一人ひとりの希望に沿えるよう努めている。和式浴槽での入浴が困難になった利用者は、上階にあるデイサービスの特別浴槽を使用し二人体制で支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	ゆっくりと本人様のペースで入浴出来ている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来ない所は支援し安心・安全に入浴出来ている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	声かけを行い無理な時には足浴などし、本人様の意思を尊重している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックを行い、その日の状態を確認し、入浴後も状態観察を行っている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	一人ひとりが何時くらいから眠り、どういったパターンなのかを把握できている				日中なるべく活動的に過ごし、生活リズムを調整して気持ちよく眠れるよう努めている。寝つきがよくない利用者には、簡単に薬剤を使用するのではなく、傍に寄り添い話を聞き落ち着けるよう支援している。不眠が続く場合に限り、医師と相談しながら睡眠導入剤の調整を行っている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中体を動かしたり生活リズムを整えるよう取り組んでいる				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	眠れないからといって簡単に薬剤の使用はしていない。検討し相談しながら支援している			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人様のペースに合わせて支援を行っている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人様から訴えがあった時には電話、手紙のやりとりの支援を行っている				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	出来ない事は一緒に手伝い、継続して出来るような支援を行っている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	どの時間でも電話出来るように配慮している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人様に渡し忘れていた時には声かけを行い音信がとれるよう工夫している				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人様から電話をかける事はあるが、家族様からの電話は少ない				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	自分の財布からお金をだして買い物に行くなど大切さを理解している				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	お金を使う機会はあるが日常的には作れていない				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	近くに買い物に行く場所は理解出来ていると思う				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	本人様だけでなく家族様とも相談しながら支援を行っている				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	必要に応じて話す機会を作っている				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	◎	毎月の出納帳を家族様に送り管理を行っている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	同じ支援にならないようにカンファレンスなどで話し合い、また本人様や家族様とも話し合い、柔軟に支援できるように取り組んでいる	○		○	過去に職員の結婚式に利用者が参列したり、別施設に入所している親族の面会に付き添ったりしたことがある。墓参りは家族の協力を得て支援に努めている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	◎	明るい雰囲気をだせるようポスターを貼ったり毎日掃除をし、きれいな玄関にしている	◎		○	自動ドアになっている建物玄関を入ると、エレベーター横に職員紹介パネ ルが掲示されており、事業所の案内板が掛けられている。エレベーターを 降りるとすぐにユニットの共用空間があり、自由に入ることができる。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	◎	家庭的な雰囲気がでるよう飾りつけなどに気をつけている	○		○	オープンキッチンのあるリビングには椅子席が設けられ、テレビのほか、カ ラオケ機やコーヒーマーカーが設置されている。広い廊下の所々にソファが 置かれてくつろぐことができる。事業所内は臭いなども感じないよう掃除が 行き届いている。壁面にはクラフト作品や行事写真が飾られており、季節感 を楽しめるよう配慮されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除も行っており臭いの配慮も出来ている			○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	壁にその季節にあった飾りをしたり、季節にあった食べ物をだしたり、行事（七夕など）の飾りもお いている			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	◎	廊下にソファを設置し一人でゆっくりと過ごせるようにしている				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	◎	扉を開けっぱなしにせず、閉めておくように努めている				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	◎	使っていた物、好みの物を居室に置き、居心地よく過ごせるようにしている	○		◎	居室にはエアコンと電動ベッドやチェスト、スタンドが備え付けられ、整理ダ ンスや鏡台等自宅で使用していた家具やテレビ、冷蔵庫を置いて個性的な 部屋になっている。利用者の状態に合わせて畳部屋に改装した部屋もある など、安全面にも配慮されている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレ・洗面所は分かる場所にあり、段差もなく安全に過ごせれている			○	現在、トイレや居室が分からなくなる利用者はいないが、浴室入り口にはの れんがかけられて分かりやすいよう工夫されており、段差のある入り口をス ロープに変更したり、手すりを設置したりして安全に移動ができるよう工夫 している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	◎	物を置きすぎないようにし、間違いが少なくなるように努めている				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	物品は置いているが、さりげない場所への設置は出来ていない物もある				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	◎	鍵をかける事によって不安感や落ち着かなくなる事は理解できている	◎		◎	利用者が不安感を感じるなど、鍵をかけることの弊害を職員は理解してお り、日中建物の玄関は開放され自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図って いる。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	鍵をかける事について話しをし、安全の確保に努めている				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく もすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	○	玄関には鍵をかけていないが、エレベーターには鍵をかけてしまっている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所の時にはアセスメントをみてもらい把握するように努めている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日々の状態を確認し変化や異常がないか注意している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	連携はとれており相談しやすい環境にある				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	希望に沿った医療機関で受診ができている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医との関係を大切にしている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	本人様・家族様と話をし、かかりつけ医との関係を築くようにしている				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時にはこまかい所まで情報提供を行うように努めている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	こまめに連絡をとったり、相談をし早期に退院が出来るよう努めている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	関係性が作れるように、関係を大事にしていこうに努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	気づいた事や変化があれば記録し、看護師と連携をとっている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	何かあればいつでも連絡可能な体制をとっている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態の変化があれば、看護師に相談するなどし、早めの対応をとっている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	全員が理解しているわけではない				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れ・誤薬がないようにチェック表で確認を行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	状態観察は常に行っており、薬が変更になった時には注意して確認を行っている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	薬が変更した時や変化があった時には、情報を提供し相談を行っている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態変化の段階ごとに話す機会を持ち、意向の確認を行っている				入居時及び重度化した際に、看取り指針によって、利用者や家族の意向を確認し、看取りを行っている。医療機関や訪問看護ステーションと連携して24時間体制でチームケアを実施し、穏やかに最期が迎えられるよう支援している。家族が居室に泊まり込んで共に最期を看取ったこともあるなど、利用者と家族の思いに配慮した支援に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	関わりのある全ての人に対して、情報を共有しながら方針を確認している	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の思い、力量を把握するようコミュニケーションをとり、どこまでの支援が出来るのか判断している				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	事業所としての対応や方針については、話をする機会を作り理解を得ている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	相談や連携をとりやすい体制を整えていくように努めている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	◎	家族様とも密にコミュニケーションをとり、心理的支援を行っている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	勉強会をし、定期的に学ぶ機会を作っている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	予防には十分気をつけており、発生した場合の日頃からの訓練は行えていない				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	最新の情報が入手できるように努力しており、取り入れれる時には、取り入れるように努めている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	テレビ・ネットなどを活用し随時対応できるように努めている				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い・うがいは徹底して行っており、清潔が保持できるようにしている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	一緒に支えられるよう、コミュニケーションをとり、関係性を築けるように努めている				職員はあらゆる機会を通して家族と意思疎通を図り、信頼関係を構築するよう努めている。家族面会時に声をかけたり、毎月担当職員が手紙に写真を添えて送ったり、年4回ホーム便りを送付して利用者の暮らしの様子を知らせている。また行事と合わせて家族会を年4回開催しており、職員から事業所の運営上のことは報告している。家族会の後は家族のみで話し合い率直な意見を聞いており、来訪時には積極的にコミュニケーションをとるよう努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	◎	家族様が過ごしやすいよう雰囲気作りは出来ている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	◎	行事には毎回参加を促し、ホームでの活動に参加出来るようにしている	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	◎	便りや写真を送付したり、来訪時にはコミュニケーションをとり日々の様子を伝えている	○		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	家族会を行っており、その中で意見などがあれば、内容を把握し報告するようにしている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	◎	本人様・家族様との間に入り、関係が築けるように支援を行っている				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	◎	家族会などで報告し、変化があれば伝えており理解・協力を得ている	×		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	◎	家族会・家族旅行を行っており、交流が図れるように努めている				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	◎	説明を行い共に対策を考え、抑圧感のない暮らしになるよう努めている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来訪時にはコミュニケーションをとり積極的に行えている			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	変更があれば説明は行えている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	説明し本人様・家族様が納得のいく支援を行っている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	◎	説明を行い同意を得れている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立段階からの機会は作れていないが、運営推進会議などで役割などの説明は行っている				町内会に加入し、地区の夏祭りや盆踊りに出かけたり、子ども神輿の来訪があるなど、管理者は地域に暮らす住民として、町内での交流の機会を増やしたいと考えている。市街地のビルの上階に事業所があるという環境条件の中では困難かもしれないが、以前、民生委員の紹介で小学生が事業所の夏祭りに来訪していたこともあり、地区組織との関係を活かした交流の機会を再開することを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	△	日頃からの関係作りは難しいが、地域の行事（盆踊りなど）には参加するようにしている			△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	見守り・支援してくれる地域の方は増えていない				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	運営推進会議の時しか来園はない				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	日常的な付き合いは出来ていない				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	×	支援してくれるような働きかけは出来ていない				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の把握は出来ていない所もあるが、安心・安全に過ごして頂けるように努めている				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	△	働きかけ、関係を深める取り組みは中々行えていない				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者様の参加は出来ていないが、他の方の参加はある	×		○	運営推進会議は家族や町内会長、民生委員、市職員等の参加を得て開催されており、外部評価等への取組み状況については報告している。参加者からの意見や提案は、サービス向上に活かせるよう努めている。事業所では、周辺からの入居者が増加しており、町内会活動や民生委員の日頃の活動について学ぶ機会を持ち、相互に理解を深めながら協力関係を築いていくことを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	報告するように努めている			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	状況や結果などを報告し、サービス向上につなげている			◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	同じメンバーになってしまったり、日程や時間帯の工夫は行えていない				
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	全員への公表は出来ていない				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念を意識し仕事に取り組むよう努めている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	掲示はしているが伝わっていない事もある	×			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	法人内外の研修に参加できるように取り組めれている				年間研修計画を立て、職員が交代で講師を務めながら、毎月内部研修を行っている。法人は、費用助成制度を設けて研修や資格取得を奨励しており、職員は意欲的にキャリアアップに挑戦している。管理者をはじめ職員は定期的に面接を行う機会があり、気軽にコミュニケーションを取れており、ストレス軽減につながっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	毎月勉強会を行っておりスキルアップにつなげている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	個々に応じて条件の整備や働きやすい環境を作るように努めている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	研修への参加は行えているが、同業者とのネットワーク作りは出来ていない				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	面接を行ったりコミュニケーションをとり、環境を整えるよう努めている	○		◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	具体的な例をあげ、そういった行為をしないような支援を行っている				年1回研修テーマとして取り上げて虐待防止について学んでおり、言葉遣いにも留意して、拘束や精神的虐待につながらないよう意識してケアに励んでいる。不適切なケアや言葉遣いに気づいた時は、その都度注意を促したり、カンファレンスで話し合うなどして意識づけをしながら改善に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	カンファレンスなどで話す機会を作っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	全ての職員が見過ごす事がないよう注意を払っており、対応方法・手順についても、おおむね理解できている			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員の日常にも目を配り、ストレスなどがないか注意しながら観察している				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	全ての職員が理解できていない所もあるが、勉強する機会を作っており、理解が出来るように努めている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	現状を確認し、身体拘束にあたるのか確認を行い、話す機会を作っている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	身体拘束がないよう、話をし理解して頂くよう努めている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	管理者は理解できているが、職員は理解できていない人が多い				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	必要に応じて行っているが、中々そういった機会が少ない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要に応じて利用が出来るよう、連携するよう努めている				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルはあり、事故発生時の対応は周知出来ている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行えておらず、実践力は見についていない所もある				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット・事故報告書があれば、スタッフに周知し共有して再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	事故が減るよう考え・検討し安全に過ごせるように努めている				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルはあるが、職員が理解できていない所もある				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	管理者は手順にそって対応し、改善に努めている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	速やかな対応をとり、関係を築くようにしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の生活の中で、意見や要望を聞くようにしている			○	利用者の意見は日常会話の中で汲み取るよう心がけており、家族からは運営推進会議や家族会、面会時の会話を通して意見や要望を聞くよう努めている。職員は様々な機会を通して意見や提案を言いやすい環境にあると感じており、年2回管理者との面談の機会も設けられている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	家族会(年4回)を行っており、その中で話す機会を作っている	○		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	情報提供は適宜行っている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	施設長に対して話を聞く機会は作れている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	一人ひとりとコミュニケーションをとり、話を聞く機会を作るように努めている			◎	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	全員での自己評価の取り組みは行えていない時がある				今回の自己評価表は各ユニットの管理者がまとめて作成しており、職員へは外部評価後に報告を行う予定である。自己評価は1年間の活動の振り返りを行い、意見を集約しながら目標と課題を明確にし、さらなるサービス向上にむけて職員が意思統一を図る機会でもあり、運営推進会議で報告し、活用するなどの取組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価を通して学習の機会としても活かしている				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成に向けて全体で取り組むように努めている				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議や家族会で報告を行っている	×		△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	定期的に確認するよう努めている				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	△	マニュアルはあるが全員に周知は出来ていない				年2回消防署立ち合いのもと、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。隣接する病院の避難訓練に参加し、火災時協力体制について話されているほか、地震災害の際は耐震構造になっている事業所内に避難することを想定しており、3日分の備蓄品を備えて定期的に点検している。今後は地域との災害時の協力関係を強固にするためにも、地区防災訓練への参加や、防災士を招いて学習会を持つなどの取組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の訓練を行っており、夜中・日中など想定して行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に点検を行っており、不備がないか確認を行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	合同の訓練や体制は確保できていないが、連携を図れている所もある	○		△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	近くの医療機関の訓練には年一回参加出来ている				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	地域にむけての取り組みは出来ていない				事業所では過去に、地域包括支援センターが行う小学生を対象とした認知症啓発事業に参加協力したことがある。近隣からの利用者が増加しているのは、事業所が地域住民から頼られているということであり、今まで築いてきた地区組織との信頼関係を深めながら、今後さらに地域に根付いた相談拠点となるような事業所となることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	運営推進会議で相談する時もある			△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	事業所を活用出来ていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力はしていきたいが、まだ出来ていない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域のイベント（盆踊りなど）には参加するようにしている			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月4日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

※事業所記入

事業所番号	3870103037
事業所名	グループホーム愛松園
(ユニット名)	みかん
記入者(管理者)	
氏 名	西上 佳子
自己評価作成日	平成29 年 8 月 31 日

【事業所理念】 1、ゆっくり、一緒に、楽しく、家庭的で温かな雰囲気で過ごして頂きます 2、自立し生きがいを持った生活を支援します 3、愛され、尊厳され、認められ、人間としての尊厳を大切にします 4、安心・安全な生活の提供に努めます	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 皆さんとの触れ合う機会を増やす。「内容」・地域行事への積極的な・ホーム行事への地域の方への声かけ・新たなイベントの考察、実施「結果」・地域行事への参加はおおむね出来ている・ホームでの行事(夏祭りなど)の参加の声かけは行っているが、地域の方の参加はない・新たなイベントの考察、実施は出来ていない 「目標」家族の運営推進会議への参加「内容」・日頃から参加の声かけを行う・ホーム行事時に会議を開催する・運営推進会議の理解をしてもらうよう説明等を行い参加を促す「結果」・参加の声かけは行っているが、一家族のみの参加が多い・ホーム行事時に開催できていない・説明を行い参加を促しているが、ご家族の都合が合わない	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 新たな管理体制となって3年目を迎え、当初目指した風通しのよい職場環境の中で職員が同じ思いを持ち、利用者が持っている力を活かしながら家庭的な雰囲気の中で暮らしているよう支援している。家族と共に支える関係を重視し、様々な機会を作って意思疎通を図りながら信頼関係を構築している。行事と同日に開催する家族会や、年1回行う日帰り旅行は利用者と家族の絆を深めている。職員は利用者と同じ目線で、利用者の笑顔や感謝の言葉をやり甲斐に感じ、サービスの向上に取り組んでいる事業所である。
---	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	アセスメント時に本人の思い、意向を聞いている。日常会話時でも努めている	○		○	入居時に利用者一人ひとりの思いや暮らしの希望を聞き取るほか、入居後は日頃の会話の中から把握するよう努めている。意向などを表現しにくい利用者は行動やしぐさから推察するなど、利用者の視点に立った支援に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	実際の生活の場面で丁寧に観察して、本人の言葉と行動を観察・検討している				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会に来られた時や電話で近況報告する時に話し合っている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	本人の思いや言った言葉をケース記録に書くようにしているが、すべて書ききれていない				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	介護者側中心の介護になっていないか確認し、本人中心の視点でとらえるように支援している				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族その他の方が面会に来られた時や本人との日常会話の中で聞きとれるよう努めている			○	入居時に利用者や家族から情報を収集するほか、病院や利用していた介護事業所から情報を得て、所定の記録用紙に記載している。利用者の生活歴や人間関係について聞き取ると共に、入居後の暮らしの様子は、申し送りや毎月開催されるカンファレンスで職員が話し合い、共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日常生活状況の中で出来る事、出来ない事を把握して、出来る事を増やしていく支援をしている				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	ケース記録やケアカンファレンス、日常のその時々で皆と情報を共有している				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	利用者に寄り添い話を傾聴し表情を観察しながら把握に努めている				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	毎日の介護記録を記録し目を通す事によって把握している				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	毎月のケアカンファレンスで皆と話し合い検討している			◎	把握した情報は包括的自立支援プログラムを活用し、課題整理総括表に記載している。職員は利用者がこれまでの生活を継続し、その人らしく暮らせるよう考え検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	毎月のカンファレンスで様々な状況をふまえ何が必要なのか皆で話し合っている				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	毎月のカンファレンス時に検討した支援をより良く実施するため、さまたげる問題点を皆で話し合っている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いや意向をきちんとアセスメントし、皆で話し合い検討している	/	/	/	生活課題は整理し、3項目程度にまとめ優先順位をつけている。利用者が持っている能力を活かせるよう実現可能な目標を設定し、活動的な暮らしありきで、支援する内容が盛り込まれている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の思いを一番に聞き、家族にも情報をいただきながら、皆と話し合い作成している	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	日常生活の場で本人の言葉・行動を観察し皆で情報を共有し話し合っている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族等は面会を通して協力して頂いているが、地域の人たちとの協力体制は限られている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	日々支援内容を確認しながら、職員間で共有している	/	/	○	介護計画の内容を常に意識しながらケアに努めている。実施状況等については漏れのないよう記入されており、職員全員で共有し利用者の意向に沿った支援につなげている。調理の手伝いやお茶を入れてくれるなど、利用者の暮らしの様子や言葉が記録されている。利用者一人ひとりに対する職員の気づき等の記入が不十分なので、利用者本位のケアにつながるような職員の工夫等の記入が望まれる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアカンファレンスでモニタリングをし状況確認を行い、問題点があれば話し合って日々の支援につなげている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	ケース記録は記録しているが、具体的に記録出来ていない時もある	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	利用者が言った事や気づきをケース記録に記録している	/	/	△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じて見直しを行っている	/	/	◎	毎月実施状況を記録に残し、それを基に計画作成担当者が中心となり職員全員で話し合っている。利用者の状態に変化があった場合は、その都度見直し、変化のない場合は6か月に1回見直している。特に状態に変化がみられない時でも、月1回はカンファレンスで話し合っている。評価表は効果が認められたもの、または見直しを要するものについて検討されており、5段階で評価されている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月ケアカンファレンスで利用者一人ひとりの現状を確認している	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	日常生活の中での過ごし方を観察し、何か変化があればその都度見直し作成している	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月一回定期的に開催している。緊急時はその場にいる職員等で話し合っている	/	/	○	毎月、全職員が参加しカンファレンスを開催し、介護計画の検討がされている。職員は意見の提案や気づきを出し合い、介護計画が現状に即した内容になっているか話し合っている。勤務の都合で不参加の職員にも、議事録の閲覧などで共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	批判・指摘にならによる傾聴し、話しやすい自由な雰囲気作りに努めている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	勤務割表をもとに夜勤者以外すべての職員が参加出来るよう工夫している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	カンファレンスの記録ノートをもとに特に重要な事は説明している	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	ホーム日誌や申し送りノートに記入し共有できるようにしている	/	/	◎	利用者の状態の変化や治療内容の変更等は、日々申し送りノートに記載して出勤時に内容を確認してサインすることで、確実な伝達ができるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	ホーム日誌や申し送りノート・口頭などで全ての職員に伝わるようにしている	○	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者に寄り添い話を傾聴し、出来る限り叶えられるよう努めている				「散歩に行きたい」「コンビニに買い物に行きたい」等の利用者の希望に沿えるよう、支援に努めている。週1回の自由食の日の献立は、利用者のリクエストに応じて特別メニューになったり、飲み物は複数用意してその中から選んでもらったりしている。職員は常に利用者のことを考えており、場を盛り上げ利用者にも積極的に話してもらえるよう利用者に元気よく話しかけるなど、雰囲気づくりにも励んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	日常生活の中で常に声かけし、選択肢の機会を作るよう努めている			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	話を傾聴しながら選択しやすく出来るように働きかけ納得しながら暮らせるよう支援している				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	職員中心の介護になっていないか確認しながら、本人のペースに合わせ支援している				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員が明るく楽しい雰囲気 で利用者 と接し和やかな雰囲気作りをしている			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	話しかけながら常に表情を観察し、声かけしながらケアを行い、全身の反応を観察している				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	声かけを行う時は相手の事を尊重した声かけを行っている。利用者への言葉かけについては、職員会議でも話している	○		○	職員は、利用者の尊厳やプライバシー保護について内部研修で学ぶ機会があり、利用者は目上の人であることを認識し、尊敬の念を持って接するよう心がけている。排泄介助時は居室扉を必ず閉めることや、入浴時希望する利用者には同性介助を行う等配慮している。また、不適切な言葉遣いに気づいた時は、その都度注意喚起しており、居室に入る際は必ずノックをするなどの配慮をしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	一人ひとり違うので、その人に合った対応をするよう努め、まわりに目を配りながら声かけを行っている			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	自立で出来る事を見つけ、さりげなく観察し自尊心を傷つけないよう心がけている				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	必ず利用者に声かけ許可を得て出入りしている			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員会議等で周知・徹底し遵守している				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	介護する人・される人という区分ではなく、ひとつ屋根の下に暮らす家族のつもりで援助している				ユニット間の仕切り扉は常に開放されており、利用者は相互に行き来して交流しており、日常の生活の中で、「危ないから座るとき。」等、利用者同士が思いやる場面がある。食卓の席配置などにも配慮し、利用者同士が何らかの形でかかわりあい、いい関係が築けるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者一人ひとりが役割のある生活を送る事、互いを支え合っていると理解している				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	一人ひとりの状態が違うので性格や相性などを把握し、良い関係が保てるように考えている。食堂の座席など気を配り職員も間に入ることにより孤立されないよう気をつけている			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が間に入り互いの思いを聞き、その場で解消できるよう努めている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	利用者や面会に来られた方との会話の中から把握出来るよう努めている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者や面会に来られた方との会話の中から把握出来るよう努めている	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	入居されれば馴染みの場所へ出かける等の支援は難しいが、会話の中で昔の話をするなど忘れないよう努めている	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会に来られた時は心良く声かけし、利用者さんと楽しく過ごして頂けるよう気を配っている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	○	散歩や買い物など外に出る時間を作るように努めている	×		○	隣接する病院の池に鯉の餌やりに行ったり、近くのコンビニへ買い物に行くことがある。また、季節毎に、花見やいちご狩り、ぶどう狩り、紅葉狩り等、福祉車輛を使って遠出を楽しんでいる。年1回日帰り旅行を企画し、多くの家族の参加を得ることができている。重度の利用者の外出支援が短時間に止まっているので、機会をみて少しでも長い時間の外出につながるよう努めて欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	協力を得ながらの外出は出来ていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	長時間は難しいので短い時間、外の空気を感じて頂けるように努めている	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族様の協力はあるが、地域の方の協力は出来ていない	/	/	/	
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員間で情報を共有し、話し合って要因を探りだしながらケアを行っている	/	/	/	話し合いを通して統一したケアができるよう意思統一を図り、利用者のできることを大切にしたケアを実施している。利用者には、できることは自分のペースで行ってもらうようにしており、職員は必ず寄り添い見守っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で出来る事、出来ない事を見極めながら、出来る事を増やしていくよう取り組んでいる	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	◎	本人のペースに合わせながら、あせらずゆっくりと一緒に行っている	△	/	◎	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	日常生活の中で本人が得意とする事や表情を観察し把握している	/	/	/	利用者のできることに着目して、暮らしの中で役割を持って暮らせるようにしている。洗濯物を畳んだり、調理では食材を切ったり米を研ぐなど、利用者それぞれが能力を発揮できるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	何が出来なくなったのかしっかり把握し、出来る事を維持していくよう取り組んでいる	○		○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中での役割がもてる支援は出来ていない	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人の個性を尊重し何が好きなのか、日々の生活の中で観察し把握している				職員は利用者がどのような状態であろうと常に清潔で、きちんとした身だしなみができるよう支援している。整容の乱れや汚れた衣類を着用している時は、それとなく声をかけて着替えてもらっている。家族から、「いつも同じ服を着ている。」という意見を受け、定期的にタンスを整理し、同じ服が上にならないよう工夫して収納するなど配慮している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	自分の気に入った服を自分で選んで着られている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人の好みを把握し、選択しやすいよう職員と一緒に考えている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	その時々にあった服を職員と一緒に選び、楽しめるよう支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	否定はせず同調しながら、さりげなくカバーしている	○		◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	美容師が訪問してカットしている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	家族から情報を頂きながら、本人らしさが保てるよう支援している			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	職員会で話し合い理解している				朝食は職員が献立を考えて調理し、昼・夕食は食材宅配業者の献立に合わせて各ユニットで調理している。週1回は自由食の日としており、季節感のある旬の食材や昔なつかしいメニューを取り入れ食材の買出しや調理を行うなど、普段とは違う料理を楽しんでいる。誕生会では誕生日ケーキを注文して皆で祝っている。利用者は専用の茶碗とコップを使って食事をし、嚥下状態にあわせて食事形態を変える等配慮をしている。嚥下が困難な利用者に対し、職員がゆったりと優しく声をかけながら食事介助をしている。職員は調理の時に、食事が楽しくなるよう利用者にメニューの話をしたり、利用者と同じテーブルを囲み和やかな雰囲気です食事を一緒にするなど配慮している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者が出来る事は職員と一緒にやっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	最後に必ず感謝の言葉かけを行い達成感につなげている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居前にアレルギーの有無は把握している。会話や食べ残しを観察し把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	週に1回利用者の好みや希望を取り入れ、季節を感じる事の出来るメニューにしている			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ご飯をやわらかくしたり、色どり良く盛り付け見た目にも食欲がでるよう努めている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入居時は今まで使っていた物を用いている			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	同じ食卓で同じメニューを食べながら、一人ひとりの食事のとり方を観察しサポートしている			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	常に声をかけながら本人のペースに合わせ、食べやすいよう工夫しながら介助している	○		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	毎食の食事量・水分摂取量を記録し、一人ひとりの状態を把握できるよう努めている				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	本人が好んで食べられる物やドリンクを提供し摂取できるよう取り組んでいる				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	職員会やその時々で話し合い、分からない事は栄養士にアドバイスを受けている			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	定期的に衛生講習会などで勉強し予防に努めている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	職員会で話し合い理解している				毎食後、利用者の能力に応じた口腔ケアを行っている。口腔内に異常を見つけた場合は、訪問による歯科診療を受けることができる。職員は利用者の口腔内の状態を清潔に保つため、歯科衛生士の協力等を得て口腔内チェックを行うようにしており、予防的な対応等さらなる取組みに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	介助している利用者は把握できているが、自立している利用者は把握しきれていない			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科衛生士からアドバイスを受け、日常の支援に活かしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	一人ひとり見守り・介助・確認しながら支援している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	◎	毎食後一人ひとりに声かけ、口腔ケアを行い支援している			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	本人からの訴えや不具合があれば、すぐ歯科医に往診依頼し受診している				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレで排泄することを基本にしており、状況に応じて利用者・家族と話し合い理解するよう努めている				排泄チェック表に記録して一人ひとりの排泄パターンを把握している。夜間のみ、おむつやポータブルトイレを使用している利用者もいるが、昼夜ともなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。排泄状態に合わせて適切な排泄用品を選択できるよう職員で話し合い、家族の了承を得て、利用者個々の状態に合った支援に取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	ケアカンファレンス等に話し合い理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	一人ひとりの排泄チェック表を毎日確認しながら、把握するよう努めている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	本人からの訴えや声かけにてトイレ介助を行い、その時々状態を把握・見直し出来るよう支援している	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排便間隔等確認しながら腹部マッサージなど改善に向けた取り組みを行っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	利用者一人ひとりの排泄のリズムを把握し、こまめなトイレの声かけ・誘導を行っている				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	夜間は大きいパットを使用するなど本人・家族と話し合い選択出来るよう支援している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	◎	便のやわらかい時や外に出る時など状態に合わせて使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	状況に応じて水分・乳製品の摂取や運動を勧め自然排便が出来るように支援している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	○	何時頃入浴したいか本人に聞くようにし、個々に応じた入浴が出来るように努めている	◎		○	一般家庭浴槽に週2回入浴することを基本に介助しており、湯の温度や入浴時間、個人用シャンプーの使用等利用者一人ひとりの希望に沿えるよう努めている。和式浴槽での入浴が困難になった利用者は、上階にあるデイサービスの特別浴槽を使用し二人体制で支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	ご本人のペースに合わせ支援している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	楽しく会話をし、出来る事を見つねながら安心して入浴出来るよう支援している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴拒否された時は時間をおいて声をかけたり、違う職員が声をかけたり工夫している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックを行い、その時の健康状態を把握し、入浴後も水分補給して頂きながら状態を確認している				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	ケース記録を確認し把握するよう努めている				日中なるべく活動的に過ごし、生活リズムを調整して気持ちよく眠れるよう努めている。寝つきがよくない利用者には、簡単に薬剤を使用するのではなく、傍に寄り添い話を聞き落ち着けるよう支援している。不眠が続く場合に限り、医師と相談しながら睡眠導入剤の調整を行っている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	声をかけて日中は活動し、一日の生活リズムが整えられるよう取り組んでいる				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	安易に服薬していない。医師と相談しながら支援を行っている			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	一人ひとりのその時々の状態を把握し、その時の状態に応じて居室にて休んで頂いている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人自ら電話をし家族などとお話し出来るよう支援している				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	家族から電話があった際に代わったりして支援を行っている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	訴えがあればいつでも電話できるように配慮している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	すぐに本人に手渡し、必要があれば家族さんにも連絡をし、音信がとれるよう工夫している				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	いつでも電話して良いか確認し、了解を得て協力して頂いている				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	ご本人自身がお金を持っている人もおり、使うことの意味や大切さを理解している				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	外出した時にご自身でお金を使えるよう努めている				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	近くの店と一緒に買い物に行くが、その店の人の理解・協力を得る働きかけは、ほとんど出来ていない				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族とも相談しながら本人の希望にそえるよう支援している				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	その時々状況に応じて話し合っている				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	◎	毎月現金残高領収書等、出納帳を作成、送付し同意を得ている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々状況に応じて家族・本人・職員と話し合い、その状態にあった支援が出来るよう取り組んでいる	○		○	過去に職員の結婚式に利用者が参列したり、別施設に入所している親族の面会に付き添ったりしたことがある。墓参りは家族の協力を得て支援に努めている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	◎	明るい雰囲気をだせるようポスターを貼ったり、毎日掃除をしきれいな玄関にしている	◎		○	自動ドアになっている建物玄関を入ると、エレベーター横に職員紹介パネ ルが掲示されており、事業所の案内板が掛けられている。エレベーターを 降りるとすぐにユニットの共用空間があり、自由に入ることができる。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	◎	家庭的な雰囲気がでるよう、飾り付けなど気をつけている	○		○	オープンキッチンのあるリビングには椅子席が設けられ、テレビのほか、カ ラオケ機やコーヒーマーカーが設置されている。広い廊下の所々にソファが 置かれてくつろぐことができる。事業所内は臭いなども感じないよう掃除が 行き届いている。壁面にはクラフト作品や行事写真が飾られており、季節感 を楽しめるよう配慮されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除も行っており、臭いの配慮も出来ている			○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	壁にその季節にあった飾りをしたり、季節にあった食べ物を出したり、行事（七夕）などの飾りもお いている			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	◎	廊下にソファを設置し一人でゆっくり過ごせるようにしている				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	◎	扉を開けっ放しにせず、閉めておくように努めている				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	◎	ご本人が使い慣れた物を持参してもらっている。また昔の写真を貼り居心地良く過ごせるように努 めている	○		◎	居室にはエアコンと電動ベッドやチェスト、スタンドが備え付けられ、整理ダ ンスや鏡台等自宅で使用していた家具やテレビ、冷蔵庫を置いて個性的な 部屋になっている。利用者の状態に合わせて畳部屋に改装した部屋もある など、安全面にも配慮されている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室に段差を作らないようにしたり、前介助の利用者にも普通の生活が送れるよう、手すりや浴槽 の工夫をしている			○	現在、トイレや居室が分からなくなる利用者はいないが、浴室入り口にはの れんがかけられて分かりやすいよう工夫されており、段差のある入り口をス ロープに変更したり、手すりを設置したりして安全に移動ができるよう工夫 している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	落ち着いた雰囲気をだせるよう工夫しているが、トイレの照明が自動のため混乱する利用者がい る				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	長い廊下に数個のイスを置き自由に座れるようにしている。新聞・雑誌等はテーブルの上に置き、 いつでも見られるようにしている				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	◎	鍵をかける事によって不安感や落ち着きがなくなる事があるのは理解出来ている	◎		◎	利用者が不安感を感じるなど、鍵をかけることの弊害を職員は理解してお り、日中建物の玄関は開放され自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図って いる。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	鍵をかける事について話をし、安全の確保に努めている				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	○	玄関には鍵をかけていないが、エレベーターには鍵をかけてしまっている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所の時にはアセスメントをみてもらい把握するよう努めている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日々の状態を確認し、変化や異常がないか注意している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	連携はとれており相談しやすい環境にある				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	希望に沿った医療機関で受診ができている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医との関係を大切にしている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	本人様・家族様と話し、かかりつけ医との関係を築くようにしている				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には、こまかい所まで情報提供を行うように努めている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	こまめに連絡をとったり相談をし、早期に退院が出来るよう努めている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	関係性が作れるように関係を大事にしていこうに努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	気づいた事や変化があれば記録し、看護師と連携をとっている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	何かあればいつでも連絡可能な体制をとっている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態の変化があれば看護師に相談するなどし、早めの対応をとっている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	薬の処方箋は医療関係ファイルに閉じているが、全て把握できていない				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	一人ひとり服薬チェック表で確認しながら、服薬の飲み忘れ・誤薬を防ぐ取り組みを行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態に変化がないか毎日確認している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態に変化があれば記録し情報提供して相談している				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態変化の段階ごとに話す機会を持ち、意向の確認を行っている				入居時及び重度化した際に、看取り指針によって、利用者や家族の意向を確認し、看取りを行っている。医療機関や訪問看護ステーションと連携して24時間体制でチームケアを実施し、穏やかに最期が迎えられるよう支援している。家族が居室に泊まり込んで共に最期を看取ったこともあるなど、利用者と家族の思いに配慮した支援に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	関わりのある全ての人に対して、情報を共有しながら方針を確認している	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の思い・力量を把握するようコミュニケーションをとり、どこまでの支援が出来るのか判断している				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	事業所としての対応方針については、話をする機会を作り理解を得ている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	相談や連携をとりやすい体制を整えていくように努めている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	◎	家族様とも密にコミュニケーションをとり心理的支援を行っている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	勉強会をし定期的に学ぶ機会を作っている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	予防には十分気をつけているが、発生した時の日頃からの訓練は出来ていない				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	最新の情報が入手できるように努力しており、取り入れれる時には取り入れるように努めている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	テレビ・ネットなどを活用し、随時対応できるように努めている				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い・うがいは徹底して行っており、清潔が保持できるようにしている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会に来られた時などに近況報告を交えながら、お話をし築いていけるよう努めている				職員はあらゆる機会を通して家族と意思疎通を図り、信頼関係を構築するよう努めている。家族面会時に声をかけたり、毎月担当職員が手紙に写真を添えて送ったり、年4回ホーム便りを送付して利用者の暮らしの様子を知らせている。また行事と合わせて家族会を年4回開催しており、職員から事業所の運営上のことは報告している。家族会の後は家族のみで話し合い率直な意見を聞いており、来訪時には積極的にコミュニケーションをとるよう努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	◎	明るく笑顔で声をかけ気軽に訪れ、居心地良く過ごせる雰囲気作りや対応を行っている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	◎	行事のある時はご家族に参加を促し、一緒に参加して楽しんで頂けるように努めている	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	毎月写真入りのお便りを作成し送付し、暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている	○		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	家族会を行っており、その中で意見などがあれば、内容を把握し報告するようにしている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	常に家族との話し合いを持ち本人を支えるよう努力している。またご家族が面会に来られた時は一緒に写真をとるなど絆を大切にしている				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	◎	家族会などに報告し、変化があれば伝えており、理解・協力を得ている	×		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	◎	家族会・家族旅行を行っており、交流が図れるように努めている				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	◎	状況の変化があるたびに家族に連絡・説明を行い、対応等を話し合っている				
38	契約に関する説明と納得	j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会時に必ず声をかけ、意見や希望を聞くよう努めている			◎	
		a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	変更があれば説明は行えている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	説明し本人様・家族様が納得のいく支援を行っている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	◎	説明を行い同意を得られている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立段階からの機会は作れていないが、運営推進会議などで役割などの説明は行っている				町内会に加入し、地区の夏祭りや盆踊りに出かけたり、子ども神輿の来訪があるなど、管理者は地域に暮らす住民として、町内での交流の機会を増やしたいと考えている。市街地のビルの上階に事業所があるという環境条件の中では困難かもしれないが、以前、民生委員の紹介で小学生が事業所の夏祭りに来訪していたこともあり、地区組織との関係を活かした交流の機会を再開することを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	△	日頃からの関係作りは難しいが、地域の行事（盆踊りなど）には参加するようにしている			△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	見守り・支援してくれる地域の方は増えていない				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	運営推進会議の時しか来園はない				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	日常的な付き合いは出来ていない				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	×	支援してくれるような働きかけは出来ていない				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の把握は出来ていない所もあるが、安心・安全に過ごして頂けるように努めている				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	△	働きかけや関係を深める取り組みは中々行えていない				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者様の参加は出来ていないが、他の方の参加はある	×		○	運営推進会議は家族や町内会長、民生委員、市職員等の参加を得て開催されており、外部評価等への取組み状況については報告している。参加者からの意見や提案は、サービス向上に活かせるよう努めている。事業所では、周辺からの入居者が増加しており、町内会活動や民生委員の日頃の活動について学ぶ機会を持ち、相互に理解を深めながら協力関係を築いていくことを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	報告するよう努めている			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	出された意見などの取り組みは状況や結果などを報告しサービス向上に努めている			◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	同じメンバーになってしまったり、日程や時間帯の工夫は行えていない				
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	全員への公表出来ていない				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念を意識し仕事に取り組むよう努めている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	掲示はしているが、伝わっていない事もある	×			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	法人内外の研修に参加できるように取り組めれている				年間研修計画を立て、職員が交代で講師を務めながら、毎月内部研修を行っている。法人は、費用助成制度を設けて研修や資格取得を奨励しており、職員は意欲的にキャリアアップに挑戦している。管理者をはじめ職員は定期的に面接を行う機会があり、気軽にコミュニケーションを取れており、ストレス軽減につながっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	毎月勉強会を行っておりスキルアップにつなげている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	個々に応じて条件の整備や働きやすい環境を作るように努めている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	研修への参加は行えているが、同業者とのネットワーク作りは出来ていない				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	面談を行ったりコミュニケーションとり、環境を整えるように努めている	○		◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	具体的な例をあげ、そういった行為をしないような支援を行っている				年1回研修テーマとして取り上げて虐待防止について学んでおり、言葉遣いにも留意して、拘束や精神的虐待につながらないよう意識してケアに励んでいる。不適切なケアや言葉遣いに気づいた時は、その都度注意を促したり、カンファレンスで話し合うなどして意識づけをしながら改善に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	カンファレンスなどで話す機会を作っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	全ての職員が見過ごす事がないよう注意を払っており、対応方法・手順についても、おおむね理解できている			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員の日常にも目を配り、ストレスなどがないか注意しながら観察してる				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	全ての職員が理解できていない所もあるが、勉強する機会を作っており、理解が出来るように努めている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	現状を確認し身体拘束にあたるのか確認を行い、話す機会を作っている				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	身体拘束がないよう話をし、理解して頂くよう努めている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	管理者は理解できているが、職員は理解できていない人が多い				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	必要に応じて行っているが、中々そういった機会が少ない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要に応じて利用が出来るよう連携するよう努めている				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルはあり、事故発生時の対応は周知出来ている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行えておらず、実践力は身に付いていない所もある				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット・事故報告があればスタッフに周知し、共有して再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	事故が減るよう考え・検討し安全に過ごせれるよう努めている				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルはあるが、職員が理解出来ていない所もある				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	管理者は手順にそって対応し、改善に努めている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	速やかな対応をとり、関係を築くようにしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の生活の中で意見や要望を聞くようにしている			○	利用者の意見は日常会話の中で汲み取るよう心がけており、家族からは運営推進会議や家族会、面会時の会話を通して意見や要望を聞くよう努めている。職員は様々な機会を通して意見や提案を言いやすい環境にあると感じており、年2回管理者との面談の機会も設けられている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	年4回家族会を行っており、その中で話す機会を作っている	○		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	情報提供は適宜行っている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	施設長に対して話を聞く機会は作れている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	一人ひとりとコミュニケーションをとり、話を聞く機会を作るように努めている			◎	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	全員での自己評価の取り組みは行えていない時がある				今回の自己評価表は各ユニットの管理者がまとめて作成しており、職員へは外部評価後に報告を行う予定である。自己評価は1年間の活動の振り返りを行い、意見を集約しながら目標と課題を明確にし、さらなるサービス向上にむけて職員が意思統一を図る機会でもあり、運営推進会議で報告し、活用するなどの取組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価を通して学習の機会としても活かしている				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成にむけて全体で取り組むように努めている				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議や家族会で報告を行っている	×		△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	定期的に確認するよう努めている				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	△	マニュアルはあるが、全員に周知はできていない				年2回消防署立ち合いのもと、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。隣接する病院の避難訓練に参加し、火災時協力体制について話されているほか、地震災害の際は耐震構造になっている事業所内に避難することを想定しており、3日分の備蓄品を備えて定期的に点検している。今後は地域との災害時の協力関係を強固にするためにも、地区防災訓練への参加や、防災士を招いて学習会を持つなどの取組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回訓練を行っており、夜中・日中など想定して行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に点検を行っており、不備がないか確認を行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	合同の訓練や体制は確保出来ていないが、連携を図れている所もある	○		△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	近くの医療機関の訓練には年1回参加出来ている				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	地域にむけての取り組みは出来ていない				事業所では過去に、地域包括支援センターが行う小学生を対象とした認知症啓発事業に参加協力したことがある。近隣からの利用者が増加しているのは、事業所が地域住民から頼られているということであり、今まで築いてきた地区組織との信頼関係を深めながら、今後さらに地域に根付いた相談拠点となるような事業所となることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	運営推進会議で相談する時もある			△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	事業所を活用出来ていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力はしていきたいが、まだ出来ていない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域のイベント（盆踊りなど）には参加するようにしている			△	